

¡Hola, amigos!

第099号

(RとNの Cádiz からの手紙)

皆さんこんにちは。これはHPというより、私達の近況をお知らせする長い手紙のようなものです。そのつもりでお読みください。更新は毎週、日本時間の金曜朝04:00時から08:00時の間に実施します。なお、バック・ナンバーは最近三号分のみとし、それ以前のものは順次削除します。

いよいよ残すところ後一回になりました。予定通り100号を持って終了させていただきます。では、今週号へどうぞ。 2006年03月10日 カアディスにてR y N

☆今週号のトップヘジャンプ

現在有効なバック・ナンバーは098号(03月03日)、097号(02月24日)
096号(02月17日)の三週分です。各週のトップにあるボタンからどうぞ。



***今週号* No. 099 (2006年・第10週)** 03月10日更新

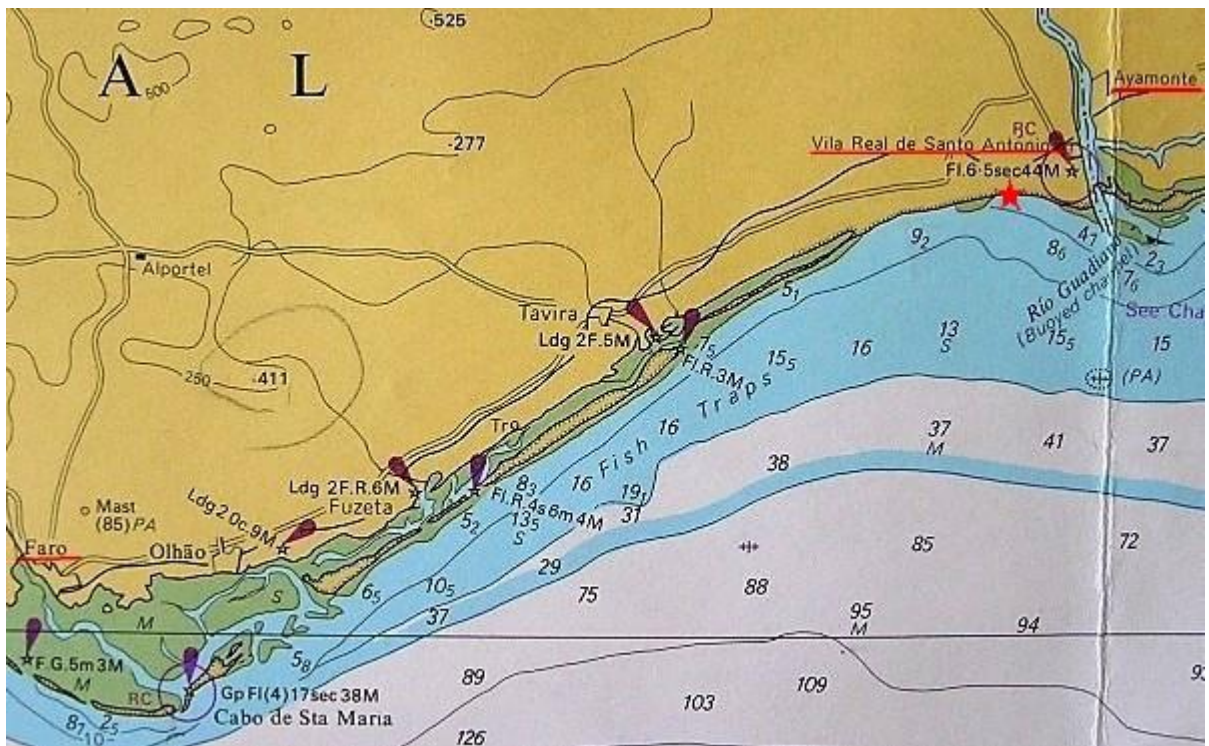
「ファーロ」の巻

国境越えの旅の続きです。初日はカアディスからセビージャ、ウエルバ、アヤモンテを經由してポルトガル側の国境の町ビラ・レアルに渡り、ホテルのあるモンテ・ゴルドまで、で終わり。地図の右上の赤い星がそのホテルの場所です。

二日目はポルトガル南岸唯一の空港を抱える町、地図の左下のファーロ Faro に行ってきました。この町こそドイツ人がこの南岸のアルガルベ州 Algarve に乗り込んでくる正真正銘の玄関口。私達のホテルからもこの空港への送迎バスが出ていました。実は私達も、スペインへの移住を模索していた頃ポルトガル南岸ファーロ近辺も視野に入れていました。ポルトガル領事館にも足を運んで年金生活者としての移住の可否を打診したのですが、その頃はまだハッキリした申請の手順を示してもらえませんでした。と言っても、決して拒絶されたのではなく、取りあえず申請をしてみてください、そうしたら出来るだけのお手伝いをしますよと言ってくれたのです。

一方、スペインはそれ以前に双方の政府間で年金生活者受け入れのルールが敷かれていてより簡単に手続きが出来る、ということでスペインへの移住に決めたのです。現在のことは知りませんが、先週お話ししたようにコレだけ多くのドイツ人を、しかも、その多くは住みついているらしいドイツ人を見かけると言うことは、多分ポルトガルも年金生活者にはっきり門戸を開放したと思うのです。少なくともEU諸国に対しては受け入れを制度化しているのだと思います。

さて、ファーロへの旅は電車です。海岸沿いの黒い線が鉄道、二重線は一般道です。



勿論バス便もありますが電車の方があらゆる面で快適だし、ポルトガルの鉄道は65才以上なら誰でも半額という情報を得ていたからです。折角そういう割引制度があるなら利用しないテはありません。

ビラ・レアル（ポルトガル語では Vila をヴィラと発音するのも知れませんが、ここではスペイン式にビラとしておきます）の駅の出札口。ファーロ二人、えーと、一人は、と言いながら内ポケットのパスポートを取り出そうとすると、ハイハイ良いですよシニア割引ですね？ そして、往復にしましょうか？ と先回りされてしまいました。取り出したパスポートもちらりと一瞥しただけで、さっさと半額切符を出してくれました。出札係は若いオニーサンでしたが、見事な発音の英語を話す好青年。

こちらが外国人と見ると自分から英語に切り替えての対応です。

スペインの多くの駅のどちらかと言うとオーキイ態度のオッサンとは大違い。スペインの鉄道で、向うから英語で話しかけてくれることはマズありません。

それにしても、顔を見ただけで疑いもせず半額にしてくれたということは、それだけジーサンに見えたと言うことか？ それを考えると嬉しさも半額。



鄙びた、という言葉がピッタリの終着駅。左手遠くに見えるのは川向うのスペイン、
昨日通過したアヤモンテの町です。昨日と打って変わって上々の行楽日和。
ところで、これまで「スペイン国鉄」という言い方をしてきましたが、昨年スペインの
国鉄も旅客運輸会社 (RENFE) と鉄道インフラを所有する部門 (Adif) に分割されて、百
% 親方ヒノマル的ではなくなっているらしい。ソレにしては態度オーキイ。どこや
らの国の民営化された鉄道の職員も昔のクセがいまだに抜け切れていない人がいるよ
うですから、スペインの旅客運輸会社の意識改革はまだまだ先の話でしょう。
それに較べるとビラ・レアルの出札窓口のオニーサンは表彰モノです。往復の車内検
札の車掌サンのアタリもとてもソフトなものでした。現在ポルトガルが外国人受け入
れを促進して外貨獲得につなげようとしている感じはアリアリと解ります。
それは渡し舟の上陸点に掲げたウェルカムの看板にも、モンテ・ゴルドのリゾート・
ホテル群にも、英語堪能な出札係にも感じられます。これきりのことで即断するのは
あまりに早計というものですが、その後ポルトガルを去るまでこの感触はずっと続い
ていたのです。人情がどうこうという事までは言えませんがね。



車内はこんな具合。片側二人掛け、反対側三人掛けの幅広電車です。スペインの大部分もそうですがポルトガルも広軌鉄道です。駅でこの電車を待っていた乗客はわずか10人足らず、しかも、半分は外国人のようでした。。4輛のドコカに散らばってしまふと殆ど無人という感じです。発車時間は11時30分、まあ、すいている時間ではあるのでしょうか。カアデイスの近郊電車もすいてますが、これほどではありませんねー。待合室の隅で立派な大型犬が堂々とヒルネをしてました。ドテッと横寝して全く無防備。多分駅長サンか、さっきの出札係のオニーサンの飼い犬なんでしょうね。





走り始めると周りはずぐ田園。自然のままの牧草地には牛が放牧されていましたが、その密度はゴク低いもので、アッチにぽつん、コッチにぽつんです。コレじゃ集める時、大変だろーナと余計な心配をしてしまいます。草原の合間に湿地帯もあり、フラミンゴや鴨の仲間が群れていて、電車が通っても知らん顔。のどかなもんです。





一時間少々でファーク着。左上隅が駅。右下の卵型をなしている黒い線は城壁で、その中が旧市街です。旧市街と新市街に囲まれるようにマリーナがあり、公園があり、この周り一円が市民の憩いの場になっている感じです。卵型の右下は広い無料駐車場で、今はすいていますが、観光シーズンになれば込み合うんでしょうね。市街地にこれだけ広い駐車場を造ったことも市の観光政策の表れでしょう。大体の地理をつかんだトコで、中央の赤い星の場所にあったロケーション抜群のカフェ café で昼食。ここで最初の地図（実は英国版海図ですが）に戻ってみてください。この辺り一帯は海岸のはるか沖合いに砂洲があり、その内側が広い潟になっています。だから小型船の泊地はいたるところにあり、マリーナなどなくても困ることはないんです。またマリーナを造るのも簡単でそのこともEUの客を呼べる材料の一つでしょう。



スモークト・ハム・サンド+サラダ+セルベサ。スペイン風サンドのボカディーヨとの決定的な違いは野菜が挟んであること。スペインのは野菜が全くないのが普通だしパンが全般にまずい。ここのパンは上等でした。観光客用の店ではないのにウェイターは英語堪能。スペインの町ではめったにないこと。セルベサ3杯付でメて16ユーロ。チップを少し置いたらサンキュー・サー。これもスペインでは聞かないセリフ。





セルベサが回って眠くならんうちに14時になるのを待ちかねて観光案内所に行きました。鐘楼の下が旧市街への入口の城門。案内所は左のハカランダ(じゃからんだ)の幹の陰にあります。ここの案内所の営業時間は午前9時半から12時半、午後は14時から17時半。私達日本人が考えても全くノーマルな時間です。

スペインみたいに14時から17時半まで休み、なんてのは大違い。そして案内所のオバサンも当然のように流暢な英語で色々説明してくれました。昨日からの経験の全てが、スペインより観光客を大事に扱ってくれているということを示しています。短い時間をやりくりして観光に来る客が、スペインでのように14時から17~18時までなすすべなく立ち往生なんてあまりにふざけてますよね。

ポルトガルを知らなかった昨日までは、それがスペイン風、郷に入りては、と我慢してたんですが、お隣が出来るこういうサービスをしないのは、スペインの怠慢だという風に考えが変りました。逆に小国ポルトガルは一生懸命相手に合わせていい印象を持って貰い、観光立国を目指す構えが出来ていると感じました。嘗て世界をスペインと二分した栄光の日々があった、ソレは過去の事と割り切れたか否かが両国の境目？



旧市街の最高地点にカテドラルがあり、その鐘楼からは360度のパノラマ、新・旧市街が一望できます。ここには8個の鐘があり、このガラス窓の中の時計仕掛けで複雑なカリヨンの音を響かせる。昔は鐘がもっと多かったのか支えだけ残ってる所もありました。下は北西の方角の新市街を見たところ。中央付近に鉄道駅があります。





カテドラルのすぐ前は神学校。右手にマリーナ。下は南の方角。潟の向うに砂洲、更にその向うに大西洋が広がります。下の写真の屋根をみてください。あちこちにツノのようなものがありますね。厨房や暖炉の煙突なのですが、スペインでは見かけない独特の形です。カテドラルの周りは僧院など、殆ど宗教色一色に包まれています。





上は東の方角、広くどこまでも潟が続きます。旗竿が並んでいるのは博物館。そして北側を、とカメラを構えたら、右端の隣の教会の尖塔に作った巣から丁度コウノトリが飛び立った所でした。アンダルシアでもそうですが、コイツは高く尖った所にはどこでも巣作りしちゃうんですね。これはシュバシ(朱嘴)コウという種らしい。





新市街の一部。町を歩いてその清潔なことに驚きました。ペットの落し物が少ないのは、飼い犬の絶対数が少ないからかも知れませんが、スペインの町では考えられない位ゴミが少ない。そうかといって、掃除人の姿もトンと見かけません。スペインでは掃除人があちこちで掃除をしていますが、それでもなおかつゴミが至る所に落ちています。観光客の集中する区域ですらそうですから、私達が買い物に行くような生活の場ではなおのこと。この違いは一体なんなのでしょうか？ マルタは日本の町の清潔なことに驚いたと言っていましたが、スペインの人達にファーロに来て見ろと言いたい。この町はアルガルベ州の州都、そして多分ポルトガルで3番目の人口、しかもアゾレス諸島などを除く本土では三つしかない国際空港の一つがある町、けれども特に観光の目玉があるとも思えない町。私達がこの町にいたのは12時半から18時半迄、その内1時間半は昼食やセルベサ休憩として、約4時間半でめぼしいトコは全部見てしまった。その程度の町です。だから町が綺麗なのは清掃予算を多く使っている為ではなく、住民の意識が高いのだと考えざるを得ません。カアディスへ帰ってきた次の週早速、あの落し物を踏んじやいました。これで来西三度目の災難。クッソー。***

「路線バスの????」の巻

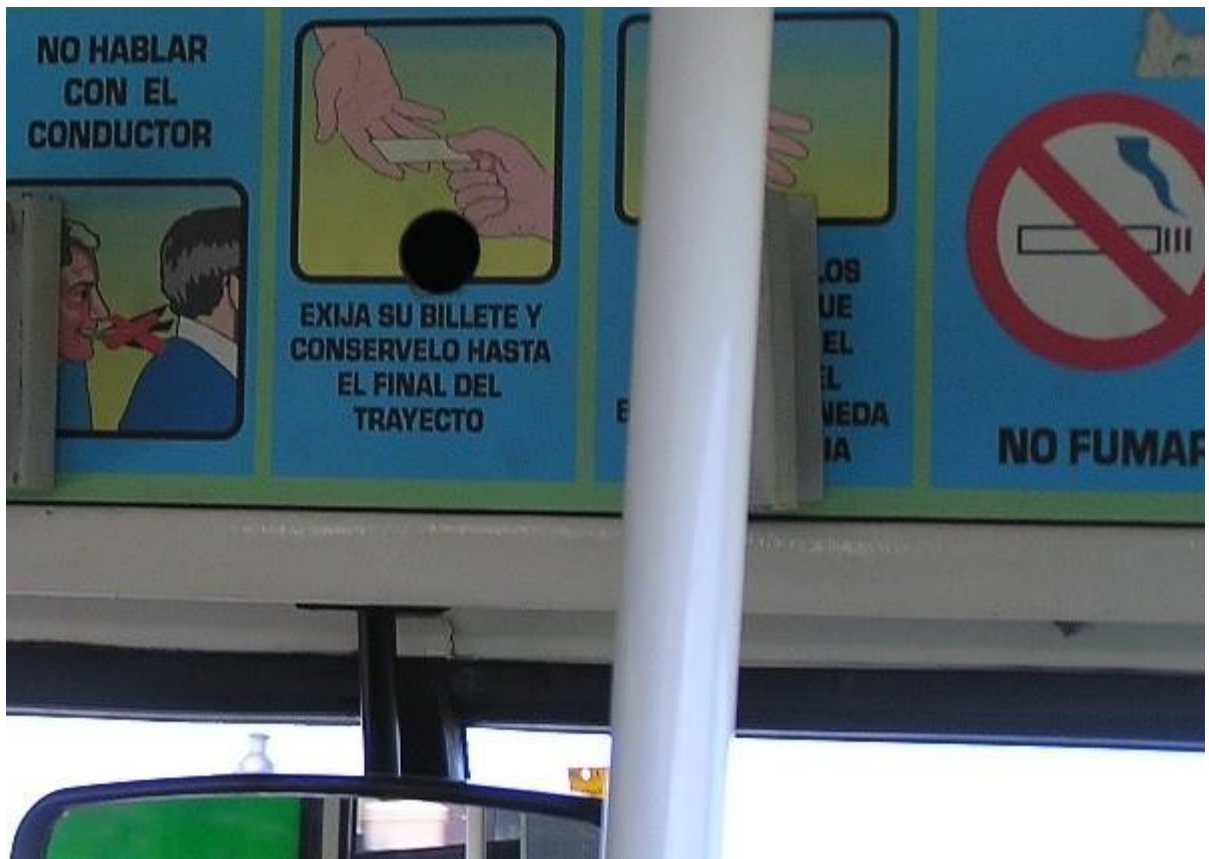
前に「国有鉄道の怪」と題して、私達が普段利用する鉄道の不都合についてクドクドとお話ししましたね、今回はその「路線バス」編でまたもや少々クドくなる話です。この国もEUに加盟して既に久しいですが、正直言って私達が移住してきた当初は随分色々な不都合・不合理に遭遇しました。はっきり言ってオクレトルということ。

けれども、気のせいここ1～2年の間に、今まで私達がこうすりゃ良いのに、ここはもっと何とかなるのに、と地団駄踏むような思いで見っていたことが、少しずつですが改良・改善され始めているように感じられます。遅ればせながらEUの北の方の国にバカにされないようにと気を使い出したのカモشれない。それは社労党政権になったから、なのかどうかは解りませんが、とにかく時期は一致しています。

前の住所ベナルマデナの時も、路線バスの運営のデタラメさにはあきれていて、その頃、カァディスの市内バスの案内標識と運行間隔は素晴らしいと思っていました。カァディスに引っ越してからも市内バスの運営には何の文句もありません。ドライバーは皆親切だし、案内表示もしっかりしていて初めて来た人でも充分理解できる明快さです。だから、今日の話の対象は市内バスではなくて近郊各都市間のバスについてです。都市間交通となると考え方を統一できない為かヘンなことが良くあります。

今年の冬もテレビでは交通事故のニュースがかなりの頻度で登場しました。冬、内陸部で雪が降ると、必ずと言って良いほど翌日は交通事故のニュースが続出です。その中にはバスの事故もかなりの数あるのです。それを見るたびにバスに乗るのも命がけだナーとつくづく思います。

いつか、私達のあとから乗ってきたオーバーさんは、隣の席にすわるなり何回も十字をきっていました。まあ、私達はそれほど緊張してバスに乗るわけではありませんが、「バス横転」なんてニュースを見ると、いつも「そりゃーそういうこともアルワナ」と思わずにはおれないのです。なぜなら、ドライバーが最前列の乗客とオオッパナシしながらのヨソミ運転を見かけるのは珍しいことではないからです。



或るバスに乗ったとき、こんな車内表示を見て、へーっと驚いてしまいました。一番左がオドロキの種なんですが、ここには「ドライバーと話をしないで」と書いてあるんです。運転中のドライバーに話しかけるのは、たとえソレが自分にとって大事な質問であっても、どこかで停車するまで待つ、と言うのは常識ですね。けれども、ここで言っていることは、それとは少し次元が違う、と思うのです。「運転中のドライバーに話しかけないで下さい」と言う意味では断じてないと思います。

そうならそういう意味の表示だって同じ位の短文で可能な筈。

「HABLAR」は英語ではSPEAKまたはTALK、「CON」はWITH。夫々の単語の解釈には触れずにおきますが興味をお持ちの方はじっくり辞書でも引いてください。まあ、それはともかく、ここで言っている本当の意味は「ドライバーと話し込んでダメヨ」だと思います。ドライバーと話をしたいばかりに、最前列に座りたがる人が少なからずいるのは事実だし、ドライバー氏も大いに会話に興が乗って、90度以上体を捻って「話しながら」の運転は良く見る光景です。

私達のオドロキはこの文の当然の内容ではなく、こんな表示を見たのは後にも先にもこの時だけだったから。他の会社のバスでこんな表示を見た事はないからです。



また、別の或る会社のバスではこんな標識もありました。赤字で書いてあることは、パイプはダメ、ガムもダメ、其の他の食品を食べるのもダメ。これとは別にその下に禁煙標識と一緒になんと携帯電話までダメと言っています。私達はコレにも全く驚かされました。車内禁煙はまあ当たり前と言えれば当たり前だし、いくらスペイン人のマナーがなっとらんと言ってもバスや電車での喫煙は実際殆ど見かけません。

けれども携帯はダメ、なんてことを言ったってソレをキッチリ守るスペイン人がいるとは到底考えられません。バスだって電車だって、みんな自分のウチにいるのと同じ調子、ビジネスだろうが私事だろうがお構いなし、周りではほかの人が話していればそれに負けじと大声を張り上げてのオシャベリです。食べるのはダメ、という事もスペインのオバさんたちには大いに反感を買うに違いない。携帯がダメ、という事になれば、あと口を動かすには食べるしかないじゃないですか。この日あるバス停で停まると、ドライバーが通路を後ろの方に歩いて行き、暫くして運転席に帰ってきましたが何しに行ったんでしょう？ そのチョット前からなにやらお菓子の匂いが漂っていたので、後ろのほうのオバさんグループにニラミをきかしに行ってきたらしい。



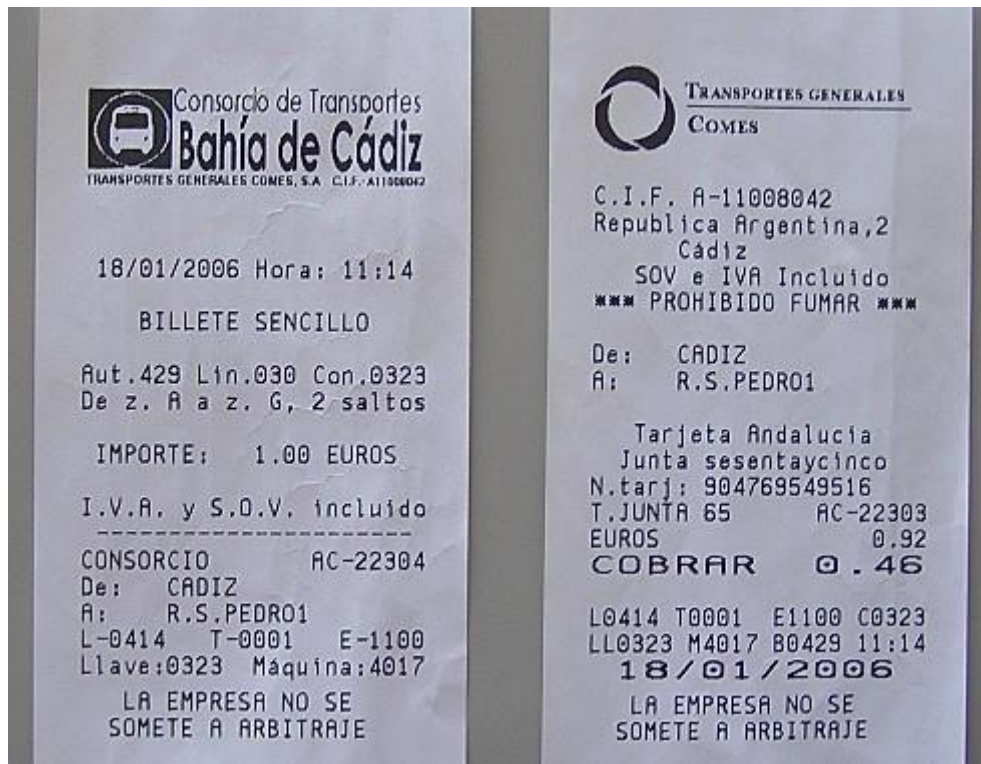
タルヘタ 65、即ち 65 歳以上の優待券を貰ってから、アンダルシア州内であれば市外に出かける時はバス料金が半額になります。例えば上の写真、これはマグロの町バルバーテに行った時のモノですが、右はN用で 5.22 ユーロ、左はR用 2.61 ユーロ、きっちり半額ですね。コレは片道ですから、往復となれば 5.22 ユーロが浮くわけ。晩酌ビノ 2 本楽に買えちゃいますからコレは大きい、且つありがたい。

ところでこの 2 枚の切符、良く見ると色々おかしな所があります。下から 4 行目の左半分は発券番号で N のが 02/26-132816, R のは 02/26-132817 と続き番号です。二人分同時に買ったんだからコレは当たり前、しかもノーマルな運賃の N 用を先に発券して、割引の R のを後でというのも領けます。PENSIONISTAS は年金受給者の事。

そして、枠で囲んだ中央の行の左半分に Fecha という欄、これは日付で 1 月の 31 日、それは OK。しかし、その右 Hora 時間は 1 時間 15 分もずれています。更に上から 3 行目と 4 行目、LINEA とは路線のことです。その番号は 0604 で同じですが

なぜかバスの始発点が N のは BARBATE、R のは ATLANTERRA となっています。

推理小説風に言うならば、この二人、同じ日にバルバーテに行ったけれど帰りは別々に帰ってきたことになります。実際はナカヨク一緒に帰ってきましたけどね！



次はカアディス湾の対岸、造船所とカアディス大学の新キャンパスのある町、リオ・サン・ペドロ Rio San Pedro へ行った時のもの。今度は左がN用、右がR用。これはバスの車内でドライバーから買ったもの、前のバルバーテのはバス・ターミナルの出札窓口で買ったものです。こんな風に車内発券の切符は小さいです。今度は切符を買った日付も時間も路線も乗車場所も行く先も矛盾はありません、当たり前ですけどね。さて、左の切符の真ん中辺に IMPORTE : 1.00 EUROS と書いてあります、これが正規運賃でNは1ユーロ、ではRは50銭か？ ところが右の切符の下から6行目に COBRAR 0.46 となっていて、これは受け取り(料金)という意味で、Rの運賃は半額ではなくて54%引きの46銭だったんです。なぜでしょう？

バス・ターミナルの出札窓口で買っても、車内で買っても発券は器械でするんですから発券者が間違ふとしたら行く先ボタンの押し違えだけ。だからこの二つの例はヒューマン・エラーではない筈で、何か器械の設定がおかしいんじゃないでしょうか。後の割引率については特別な路線で特別の取り決めがあるのかも知れませんがね。

ところで、先のバルバーテの出札口でタルヘタ65を出したら、係りのオジさんはビックリして奥の同僚に、オーイ来てみろよ、このハポンのセニョールはタルヘタ65を持ってらんだぜ、こんなの見たことないよなー、テナことを言っていましたね。



タルヘタ 65 を使う日本人はそう大勢いないのか、そういう年齢の人は大勢いても、みんな車を持っていて、私達のように路線バスを多用しないのかも知れません。ポルトガルからの帰りにも、アヤモンテのバス・ターミナルで、「エエッ、タルヘタ 65？これ貴方のですか？」とビックリされました。タルヘタには写真もついているし、パスポートを出そうとしたら、いえいえ、それには及びません、と別に疑った訳ではなかったようでしたけどね。彼女も日本人のは初めて見たんでしょう。さて、最後に上の写真。これはアルコス・デ・ラ・フロンテーラへ行った時のもの。左の2枚は往きに切符売り場、右の小さいのは帰りのバスの車内で買ったもの。往きと帰りで料金が違いますが、乗ったバスの会社が違うから。同じ路線を走っているバスでも会社間の協定料金なんてのはありません。じゃあ、安いほうに客が集中するかというと、どっこいそうは行きません。安いほうは極端に便数が少ないんです。両方ともなにやらメモ書き数字が見えますね？ これ、Nの正規運賃とRの割引運賃を計算した跡なんです。私達が、じゃありませんよ。発券係とドライバーがです。計算器ってモノはないんでしょうかねー。車内ならまだしも、窓口でならこんな筆算をしなくてもよさそうなものを、と思いますが、言葉が不自由らしい私達に書いて示してあげようという親切心だった、と解釈しておきましょう。

右の切符の下から2行目 COBRADO は受け取り(料金)、最後の DESCUENTO は割引。で

すからNの正規料金4.37とRの料金2.19を足さなきゃいけないのに、このドライバー氏は割引分2.18を足しちゃってます。4.37+2.18=6.55。1銭の違いなんてどうでも良いですけどね。スーパーのレジでさえも1銭のお釣はくれないことがしょっちゅうだし、その代わり1銭出っ張っても、イイワ、で済んじゃう。個人商店なら2〜3銭でも当然の如く、くれないし、とらない。

先日のテレビ・ニュースで、或る観光バスのドライバーが途中の休憩で呑みすぎて酔っ払ってしまったので乗客が騒ぎ出し、高速道担当の治安警察を呼んだという騒ぎがありました。ツアー・バスは2時間おき位に「カフェ」と称して街道筋のバルでトイレ休憩をするのが普通ですからね。そのたびに呑んでとうとう酔っ払ったらしい。でも、真相は多分もうちょっとヒネリがあるんじゃないか？ 乗客の何人かが休憩の度に呑め呑めとすすめたんじゃないか?? 車内のオシャベリの延長でノリ過ぎてしまったんじゃないか??

テレビのレポーターに文句を言っていたのはコワソーなオバサンで、男性陣は殆ど沈黙してましたからね。スペインのバスに乗るのは命がけ、でも色々面白い。***

(廃刊のご挨拶)

表紙でも触れましたが、この iHola amigos! は次号の第100号で終了させていただきます。一部の方は休刊とお考えのようですがそうではなく、**廃刊**です。再びアップロードすることはございません。

この長い手紙を書くことは、私達の生活のリズムを刻むメトロノームの役を果たしてくれたと思います。途中、休刊の期間を除いて100週・700日、約2年間、私達のスペイン暮らしの骨でもありましたし、これを書いている間は日本との距離の隔たりを殆ど感じないという錯覚さえありました。これがなくなると、暫くの間は毎週金曜になると、なにかやり忘れたような気持ちになるでしょう。

なお、これからは私達のスペイン暮らしの断片を**メールで不定期**に発信しようと思います。画像が多いとメールの**制限容量の1メガ**近くなり、ダイヤルアップ接続の方には**数分以上の接続**を強いてしまい、ご迷惑をおかけすることになります。

従ってご希望の方宛てにのみ、宛先B C Cにて送信させて頂こうと思います。
配信ご希望の方はRまたはN宛てにメールでお知らせください。開始時期は未定ですが、出来れば4月中頃からと考えています。お知らせをお待ちしています。

captrok@jf7.so-net.ne.jp

nori37@jf7.so-net.ne.jp

上段はR宛て、下段はN宛ての場合です。

長い間ご愛読いただき本当にありがとうございました。

2006年3月10日 カァディスにて Ry N
